

歴史文化・広域観光対策特別委員会審査概要報告書

委員長 永森 茂

- I 開催年月日 平成 29 年 7 月 31 日（月）
II 会議時間 午後 1 時 00 分～午後 1 時 28 分
III 出席委員等 〔出席委員〕◎永森 茂 ○高畠 義一 藪中 一夫
野上 達夫 本田 利麻 盤若 進二
金平 直巳 山沼 茂敏
(◎…委員長 ○…副委員長)
〔議長〕 曾田 康司
〔副議長〕 樋詰 和子
〔説明員〕 別紙名簿のとおり
〔委員外議員〕 福井 直樹
〔事務局職員〕 敦賀 茂樹 安東 浩志 柚原 規泰
吉田 昇平
〔傍聴者〕 なし

IV 審査の概要

1 報告事項について

〈 当局から、次のとおり報告・説明があった。 〉

〔産業振興部〕

- 。平成 29 年度における広域観光の取組みについて

〈 委員から次の質疑があった。 〉

（ 以下、質疑・質問内容は ○ 、答弁内容は △ で表示 ）

【観光産業と地域の経済状況について】

- 観光産業と地域の経済状況、特に消費購買力には密接な関係がある。本市の観光に大きな影響を与える現在の経済状況について、どう把握しているのか。
- △ 観光客数と経済状況とは必ずしもリンクするわけではないが、魅力ある商品やイベント等があれば、経済状況は好転するものと考えている。例えば、県の統計によれば平成 27 年の県内主要宿泊施設における外国人宿泊者数は約 20 万人で、26 年の

約 14 万 6,000 人と比較し 136.6%と伸びている。また、本市における台湾からの宿泊者数（観光庁宿泊旅行統計調査による）は、26 年が（1～12 月）1,145 人に対し、28 年（1～12 月）は 1,352 人と、20%近く増加している。観光産業は総合産業であり、本市としてもこうした状況を活かしながら一生懸命頑張っていかなければならないと考えている。さらには、2020 年の東京オリンピック・パラリンピックに向けて、全国で訪日外国人誘客の動きがあり、本市もポーランドのホストタウンの認定を受けたことから、これに向けてしっかりと取り組んでいきたい。

【高岡市の観光における食と宿泊の連携強化について】

- 高岡市観光振興ビジョンでは、本市の観光が抱える問題として、食と宿泊の連携が弱いということが指摘されているが、これについての捉え方と、平成 29 年度における食と宿泊の連携強化のための戦略的な方向性・方針は持っているのか。
- △ 食の分野では、まだ本市は通過型と認識されているところがある。一方で、高岡は、様々な物資が集積してくるまちでもある。多様なものを食することができ、楽しむことができる点は、売りの一つになるものと考えている。高岡市観光振興ビジョンの中でも、食のブランド化に対する事業の支援を謳っており、また、食のブランド化と共に、器による食の楽しみ方の提案など、別の意味で食を楽しんでいただく取り組みも進めており、魅力向上を図っていききたい。このように食を通じた地のものを使った取り組みや土産物開発、ホテルや飲食店とのタイアップなど十分連携しながら、宿泊及び経済効果につなげられるよう努力をしていきたい。
- 食と宿泊に関連して、市内の団体から様々な提言が出されているとおり、「産業観光」も重要な分野である。「産業観光」に対する行政の支援を求めるという動きもあると聞いているが、これまでの取り組み状況と、平成 29 年度以降の方針は。
- △ 行政としては、産業観光施設におけるハード的な支援はもとより、その後の PR の面でも「産業観光」を前面に打ち出しながら、旅行エージェント等に対し、ツアーの中に組み込む形で売り込んでもらえるよう働き掛けているところである。今後は、ファクトリーなど体験型の施設が注目を浴びてくる傾向にあり、インバウンドについても同様である。ものづくりのまち・高岡の強みでもあることから、これを前面に打ち出す形で進めていきたい。

【高岡御車山会館の入館者数と今後の戦略について】

- 高岡御車山会館のオープン以来の入館者数と、その評価は。
- △ 高岡御車山会館については、年間を通じて入館者が多い月は、祭礼日がある 5 月である。平成 28 年 5 月は、月間の来館者数は 11,500 人で、うち有料入館者数は 7,600 人余りであった。特に、29 年 5 月は行幸啓の影響があつて来館者が増加するなど、行事ごとに大きく影響を受ける傾向にある。他の月については、月間 4,000～5,000 人程度で推移しており、開館以来大きな変化はなく、比較的定着してきていると捉えている。旅行者やツアー商品の中で、次第に高岡御車山会館が認知されてきたものと認識している。
- 高岡御車山会館のリピーター確保について、平成 29 年度はどのような戦略を持っ

ているのか。

- △ 高岡御車山会館の認知度は上がってきた。高岡御車山祭の御車山行事がユネスコ無形文化遺産に登録されたことで、全国的に広がってきたところもあるので、様々なメディアや旅行業者を通じてPRしていきたい。現在、国の政策として、「昇龍道プロジェクト」がある。その中の山車・からくり等のプロジェクトに御車山も位置付けてもらいたいと考えている。タイアップして行うワークショップ等もあることから、高岡御車山祭・高岡御車山会館を一つの要素としてしっかりと位置付け、リピーターを呼び込めるよう進めていきたい。

【複数の観光地を周遊してもらう取り組みについて】

- 呉西圏域や飛越能が連携して取り組む旅行商品のパンフレットを数点見ていて、特に1泊の旅行商品では、本市の瑞龍寺が1件と県内他市の観光地とセットにしたものが多いと感じる。瑞龍寺1カ所だけでなく、本市における複数のスポットをアピールできるようなパンフレットの作成や営業、旅行業者に対する依頼等について、一歩踏み込んだ売り込みが必要と考えるが、見解は。
- △ 県西部地域や県内全域で連携する商品の中で、高岡の露出を大きくするためのアピールは重要だと考えている。広域的な地域の旅行商品の中で、本市が通過点にならないよう、しっかりと見て、泊まっていただくためのアピールは続けていきたい。多くの市による連携した取り組みの中では、本市だけという調整が難しい部分もあるが、しっかりと見ていただけるよう取り組んでいきたい。
- 例えば、広域的な旅行商品を求める首都圏の方々などに対し、本市の良い所を何カ所も見せたいと考える。本市で3～4カ所は厳しいが、最低でも2カ所は、セット商品に組み込んでほしい。瑞龍寺だけでなく、例えば高岡御車山会館も組み込んだ商品提案をしてはと考えるが、見解は。
- △ 国宝・瑞龍寺は非常に人気があるスポットだが、市内ではその1カ所だけということが、いわゆる通過型となっている要因とも考えられる。その後に続く、2番目、3番目の施設から宿泊へと結び付けられるよう、工夫していきたい。
- 「常設展示館等周遊共通券発行事業」を開始後、数カ月経過しているが、周遊共通券発行の実績は。
- △ ユネスコ共通チケットの販売実績は、7月中旬時点で約50件である。件数は本市としてもやや少ないと認識しており、現在製作中の周遊を促進するためのロードマップを活用しながら、夏休み期間や秋の行楽シーズンに周遊していただけるようPRに努めていきたい。

2 その他

・行政視察について

8月3日（木）から4日（金）に実施することが報告された。

〈 委員から次の質疑があった。 〉

【おとぎの森公園への誘導案内板について】

- 市内にはいろいろな観光資源があるが、おとぎの森公園及びおとぎの森館は、非常に有力な観光資源であると考え。ある観光客からは、誘導案内板が少ないとの指摘があった。現在設置されている誘導案内板の数は。また、今後、誘導案内板を増設し、さらにPRすることは重要と考えるが、見解は。
- △ おとぎの森公園については、県内でも有数のバラ園を抱えていることから、市内外から多くの来訪者があるものと認識している。誘導案内板の現在の設置数について手元に資料はないが、平成24年に、呉西地域の主な拠点へ向かうための道路案内標識の検討委員会を設置した経緯がある。その中で、インターチェンジをメインに、主なところへ誘導するよう検討した資料があるので、後日、お知らせしたい。今後のおとぎの森公園の使われ方については、おとぎの森館設置から約20年が経過していることから、リニューアルを含めて公園そのものを見直していきたい。

【重要伝統的建造物群保存地区の整備予定について】

- 高岡は、日本遺産やユネスコ無形文化遺産の認定を受け、歴史都市としてさらに磨きをかけていく必要がある。平成23年に高岡市歴史的風致維持向上計画が策定され、そこでは整備の必要がある事項が示されているが、29年度における山町筋の重要伝統的建造物群保存地区の修理計画は。
- △ 山町筋・金屋町などの重要伝統的建造物群保存地区における建造物の修理事業は、国の補助を受けて実施しているところである。平成29年度に採択された中で、山町筋では5件の修理事業が予定されている。

〈 以上で委員会を閉じた。 〉

歴史文化・広域観光対策特別委員会 当局説明員（１０名）

副市長	村 田 芳 朗		
産業振興部長	福 田 直 之	教育長	米 谷 和 也
次長 商業雇用課長	山 村 淳 子	教育次長	柴 田 文 夫
観光交流課長	長 谷 川 聡	生涯学習・文化財課長	杉 森 芳 昭
都市創造部長	堀 英 人		
次長	川 上 孝 裕		
都市計画課長	久 郷 聡		